

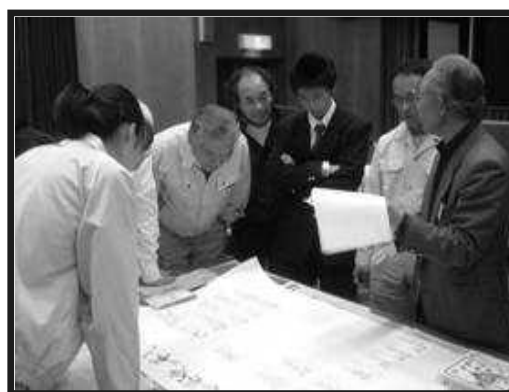
林業者としてつかみたい夢 ～新しい視点で森林を考える～

岐阜県立飛騨高山高等学校（山田校舎）

環境科学科 3年 田中 有紀子

春、雪が解けてしまった山肌に、まるで残雪のように咲くコブシの花。若葉が出始めると、深紅に咲き誇るヤマツツジ。乗鞍連峰を臨み、四季折々に美しい姿を見せる山々に囲まれて、私は飛騨高山で育ちました。幼い頃から、我が家の所有する山に親子3人で入り、森林の中を歩きました。家の柱材を育てるために枝打ちをしたとき、森林組合で働く父が木と真剣に向き合う姿や、チェーンソーを巧みに扱う技を見て「私も父のように山で働きたい！」と憧れを抱くようになりました。

高校1年生のとき、『全国植樹祭』のプレイベントである『間伐大作戦』に参加し、実際にチェーンソーを使って伐採を行いました。また『岐阜県木の国山の国1000人委員会』では林業復興について意見交換をすることができ、さらに2年生のときに参加した『全国林業者大会』では、実際に私たち飛騨高山高校環境科学科が行っている取り組みを発表しました。インターンシップでは森林組合で林業就業体験を行いました。こうした様々な体験や活動に参加するうち、「私も林業技術者になれる！なりたい！」という思いは、さらに強いものへと変わっていきました。



木の国山の国1000人委員会



間伐実習の様子

しかし、不安に思うこともありました。それは、体力面での問題です。父には、山の仕事は体力勝負だから女性には無理だと言われたこともあります。環境科学科で学ぶ今、クラスの中で女子は私1人です。果たして、女性である私が、林業技術者として現場でやっていけるのだろうか。不安を抱えていたとき、父が女性林業技術者である高田直子さんを紹介してくれました。さっそく私は高田さんに会い、質問をしました。「林業技術者としてどのようなところに男女の差を感じますか。」高田さんはとても気さくに答えてくださいました。「男女の差は感じたことないよ。男性とは体力差があるし、仕事量も違ってくるかもしれないけど、努力しだいで男性と変わらず仕事はできるよ！」高田さんの仕事は、おもに高性能林業機械を扱うオペレータです。高田さんのように自由に高性能林業機械を扱えれば、私でもきっと男性以上の仕事ができると感じました。

しかし3年生になり、さらに林業の勉強をしていくうち、新たな疑問が生まれました。「急傾斜地が多く森林率が90%を越える高山で、高性能林業機械は有効に使うことができるのだろうか。」昨年のインターンシップでお世話になった、飛騨高山森林組合東支所の営業所長である柴田さんを再度訪問し、このことについて聞いてみました。「作業路を使えば高性能林業機械も可能だけど、急すぎると難

しいな。」民有林既設林道の長さ4,122km、全国3位という実績をもつ岐阜県でも、機械が使えるような林道は数少ないようです。林道を確実に増やすことが、作業の効率化につながるとわかりました。

柴田さんは最後に、ご自身のことを『変わり者』だと言っておられました。「林業は、変わり者でなければできない仕事だと思うよ。」私は、その言葉の意味が一瞬分かりませんでした。しかし、よく考えると当然だと思いました。国産材の価格低下により林業は衰退しています。多くの森林が放置され、山に対する関心は薄れているのです。この間



インターンシップ



ネイチャーゲーム

題を解決するには、まず、日本人みんなが森林の大切さに気づき、関心を持つことが重要なのです。

このような視点で考えたとき、私は『森林インタープリター』に興味を持つようになりました。そして、森林環境教育にたずさわっておられる飛騨森林管理署、森林ふれあい係長の大西沙織さんにお会いすることができました。大西さんは小柄でかわいらしく、とても森林の中で男性と一緒に働くようには見えませんでした。身近に山も畑もない

『横浜』で育ちながら林業に関心を持ったのは、子どもの頃、おばあちゃんに樹木の名前をたくさん教えてもらったからだそうです。その楽しかった記憶が、「もっと森林について学び、環境問題に取り組みたい。」という夢につながったのだと教えてくださいました。今は月に1回、小学生を対象に森林教室を行っており、森林環境教育についてたくさんのお話を聞くことができました。「まずは、日本の森林を守りたい。」と話す大西さんは、とても印象的で頼もしく感じました。「性別に関係なく、働く中で自分の居場所を見つけしてほしい。そして、この道は厳しいけど、あきらめない



森の不思議箱



全国林業者大会

でほしい。」というアドバイスは、私にとって大きな励みとなりました。

私の小さい頃からの夢は、父と一緒に森林組合で働くことです。森林組合に対する思いは今も変わりません。でも、たくさんのお話を学び、たくさんの人に出会ったことで、「林業や、森林環境教育について、もっと現場で学びたい！」と思うようになりました。林業者を目指す若者がいつか『変わり者』ではなく、誇りを持って森林環境を守れるように、林業のスペシャリストとして、また、森林の大切さやすばらしさを次世代に伝えるインタープリターとして、林業にかけた夢を必ず実現したいと思っています。